

R 7 年度の取組報告

権利擁護部会

R8. 2. 24 上越市障害者自立支援協議会 第2回全体会

① R 7 年度の取組内容

権利擁護に関する 研修会開催

- 地域移行支援に関するもの
- ピアサポーターに関するもの

研修会結果は参考資料1のとおり

上越地域の 長期入院の実態調査

- アンケートによる調査
- ヒヤリングによる調査

実態調査結果（アンケート・ヒヤリング）は参考資料2と3のとおり

参考：開催経過

月日	内容
4月14日（月）	・R7年度の取組について（第1回部会）
5月22日（木）	・長期入院実態調査について（第2回部会）
7月 1日（火）	・長期入院実態調査にかかるワーキングチーム進捗状況報告（第3回部会）
8月 4日（金）	・長期入院実態調査について（第4回部会）
8月20日（水）	・オーレンプラザにて研修会開催「地域移行における当事者との協働の可能性」
10月 8日（水）	・研修会アンケート結果の共有、入院実態調査結果の共有、病院ヒヤリングの検討（第5回部会）
11月 7日（金）	・高田西城病院ヒヤリング
11月14日（金）	・川室記念病院、三交病院ヒヤリング
11月18日（火）	・さいがた医療センターヒヤリング
12月19日（金）	・ヒヤリング結果の共有、令和7年部会取り組みまとめ（第6回部会）
2月 2日（月）	・長期入院実態調査フィードバック、次年度取り組み（第7回部会）

② R 8 年度の取組方針

精神障害がある方の
入院期間を長期化させ
ないための必要な支援

- R7年度実施した入院実態調査結果の共有、必要な取り組みの協議継続
- 新たなネットワーク構築に取り組む。

権利侵害に関する
現状把握

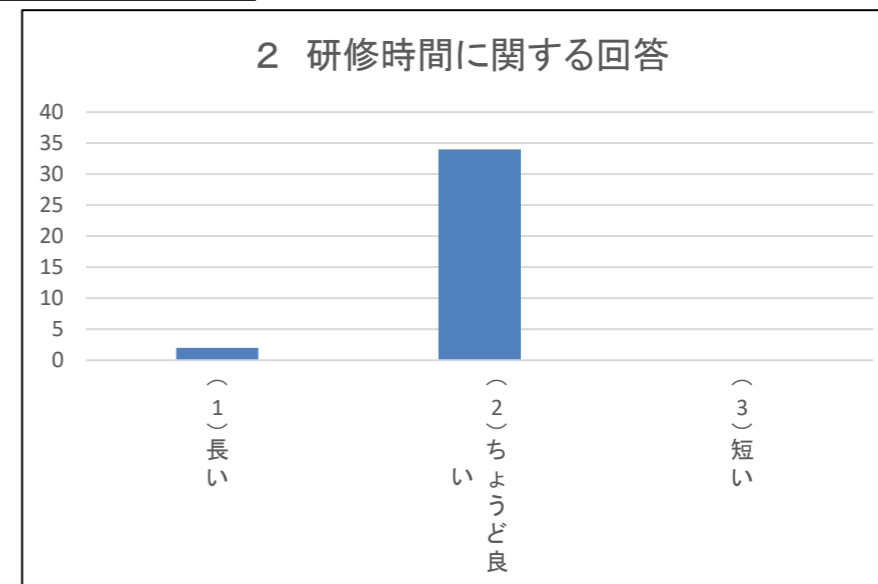
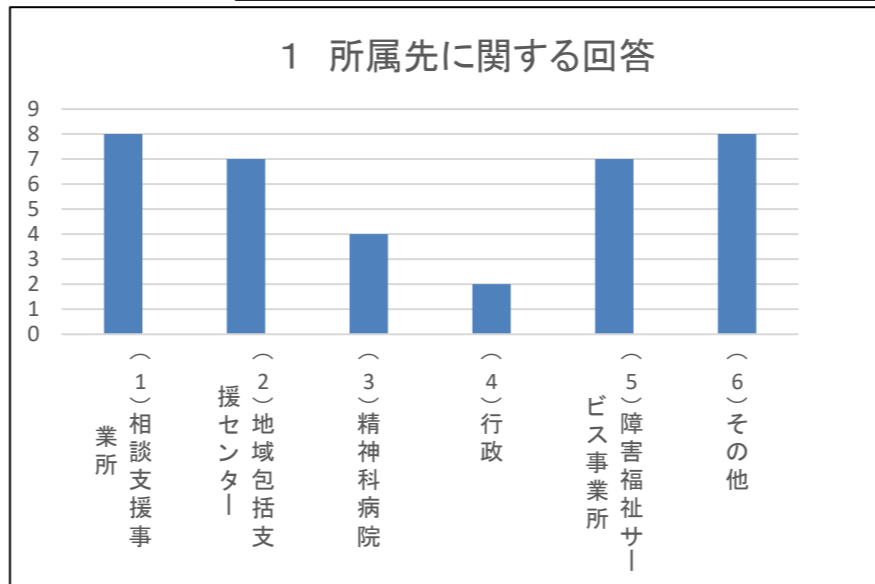
- 相談支援等で見えてくる権利侵害に関する具体的事案の整理
- R9年度以降の取り組みの協議

令和7年度権利擁護に関する支援者向け研修会（R7.8.20実施） アンケート集計

研修会参加人数 81名 講師2名、事務局8名、権利擁護部会3名 計94名
 参加者内訳 相談支援事業所35名
 地域包括支援センター10名
 精神科病院6名
 障害福祉サービス事業所 20名

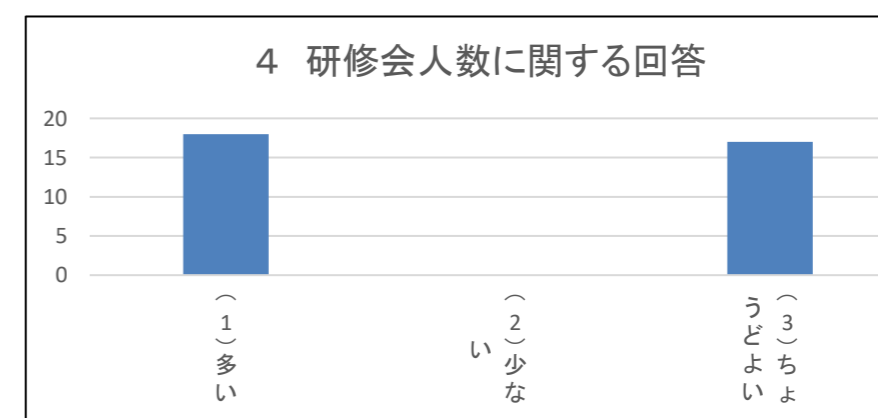
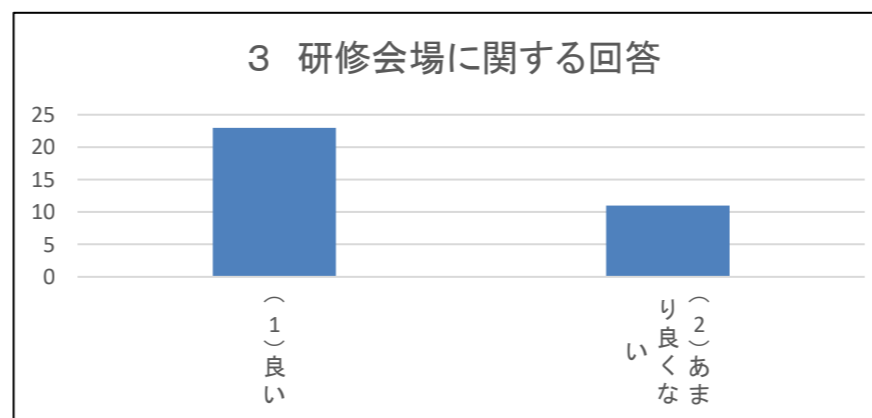
1 あなたの所属先についてお聞かせください。（いずれかに○をつけてください。）

回答	回答数
(1) 相談支援事業所	8
(2) 地域包括支援センター	7
(3) 精神科病院	4
(4) 行政	2
(5) 障害福祉サービス事業所	7
(6) その他	8
合計	36



2 研修の時間は適切でしたか。（いずれかに○をつけてください。）

回答	回答数
(1) 長い	2
(2) ちょうど良い	34
(3) 短い	0
合計	36

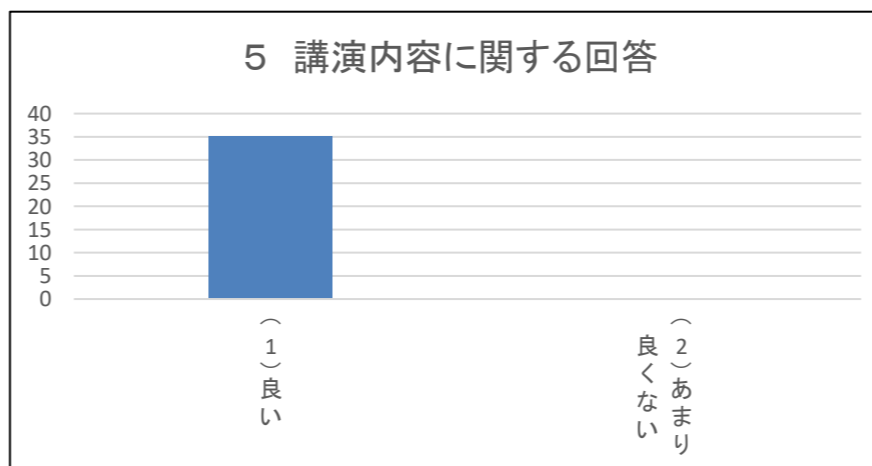


3 研修会場は適切でしたか。（いずれかに○をつけてください。）

回答	回答数
(1) 良い	23
(2) あまり良くない	11
合計	34

4 研修会の人数は適切でしたか。（いずれかに○をつけてください。）

回答	回答数
(1) 多い	18
(2) 少ない	0
(3) ちょうどよい	17
合計	35



5 講演内容について、いかがでしたか。（いずれかに○をつけてください。）

回答	回答数
(1) 良い	35
(2) あまり良くない	0
合計	35

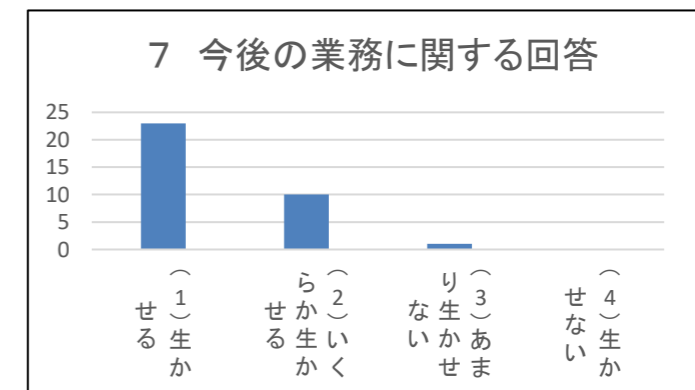
6 質問5の回答を選択した理由をお聞かせください。（自由記述）

自由記述

回答
支援者の講義良かったです。さらに当事者でもあるピアサポーターからの講義は、生の声が聞けて良かったと思いました。御本人様の誠実に行いたい、支援者と共に当事者様とのかけ橋になりたいという思いがとても伝わって来ました。
ピアサポーター（スタッフ）という当事者でもあり、支援者でもある立場の方からお話を聞くことができ、貴重な機会でした。
退院促進に興味があったので
これから地域移行を、力を入れてやっていってほしいので
市外の地域移行に関わる取り組み、ピアサポーターの実際の言葉や思いを聞けるいい機会となった。特に、ピアサポーターとしての苦悩ややりがい、仲間との意見交換などを聞き、もっと話を聞きたいと思った。
地域移行のイメージが明確になった。
もっとピアサポーターの事を知ってもらい、増える事を願います。
具体的な方法や、当事者の話を聞くことができ良かったよ
佐藤さんのピアサポーターとしての話はたいへん参考になった。 このピアサポーターの育成は相談が片手間でできるものではなく、しっかり考えなくてはならないと感じた。
ピアサポーターの方の、実際活動されている内容や、お気持ち聞いて良かったです。上越市にピアサポーターの方がおられるか分かりませんが、佐藤さんのようなお気持ちの方が、上越にもいると良いと思いました。
先進的な取り組みをされている地域の実情を聞いてよかった。ピアサポーターの方からもお話しいただけてよかった。
地域移行をピアと協働して実践している報告を聞いてよかった
ピアスタッフとしての葛藤や実際に現場で働くピアスタッフの生の声が聞けた事。 退院までの促進の動きが私にも想像できる説明で良かった。 退院支援には私はまだ関わった事がないので、これから関わる事があるかもしれないので、今日の講座はとても参考になると思いました。 休みの日にも対応しているとのことですが、私はそれをやって、半年で自分のハウンドアリーを超えてしまったので、それを続けている事に佐藤さんの凄さを感じました。
先端に行くピアサポーター活動を知ることができて参考になった。
当事者のリアルを聴くことが出来た為。ピアサポーターという言葉は知っているが、活躍の実態が分からなかった。以前関わりのあった方で、自分が経験したことを社会の役に立てたいと言っていた方がいたことを思い出した。
精神障害者の地域移行・定着のために、支援者とピアサポーターが対等な関係をつくり、取り組んでいる実践をお聞きして、その支援者と被支援者の関係を越えた、何でも相談し合い、学び合う取り組みに感銘を受けました
時系列でこれまでの取り組みについて具体例を交えながらお話いただき分かりやすかった。当事者にしかわからない退院後の不安に寄り添うピアサポーターという存在はとても大きく、地域生活を支える重要な存在であると思う。自分自身の経験や、ピアサポーターの活動を通じ自分を俯瞰し、自分の立場、役割を理解されている佐藤さんはすごいと思った。
貴重な機会をいただき、とても興味深いお話であり、学びや気付かされることが何点かありました。 やどかりの里様の、とにかく「対話」をしながら進めていくという文化が土台になっていると感じました。また、一人ひとりの経験は、AIなどの文化がすすんでも唯一残る、代替えのきかない宝だと思いました。 佐藤様の、自分も救われる時もあるという時もあるというお話しや、失敗したなと思っても支援者や同じピアサポーターの方に悩みを打ち明けて、自分だけで抱えず、チームで支え合うことで、続けられていることを教えていただきました。 上越市内の精神科病院の長期入院者が減るように、実態調査や勉強会を通して現状をオープンにしていく機会が必要だと感じました。
実践されている内容でわかりやすく、上越市も実現可能なこともあると感じました。
実際のピアスタッフの生の声を聴くことが出来て良かった。周りに配慮した内容ではなく失敗も成功も隠さずその人の声を聴けたことが良かったし佐藤さんの話術も良かった。 大澤さんの講演も分かりやすくまとめて下さり講演を聴くのが苦手な自分でも分かりやすかった
ピアサポーターとして活動されている方の生の声が聞けたことが良かった。支援者としてハッとさせられるようなことも自分の言葉で話されていて、聞き応えがあった。
<ul style="list-style-type: none"> • 人数の関係でオンラインで参加させていただきました。ハイブリッドの研修は日程も組みやすく、助かりました。 • 目新しい事業展開を聞くことができ、良い機会となりました。上越でも今後の地域移行地域定着の支援のあり方は検討が必要ですね。 • ピアの方も生き活きとされていて、活動や活躍の場としてとても良いなと思いました。ピア育成の知識もわたしたち専門職も必要と感じました。
普段あまり関わりのないピアサポーターという題材だったため、色々学ぶことができ良かったです。 上越市でもピアサポーターがいれば、セルフプラン導入の際に意見がいただけたり、ご利用者様目線の貴重なお話しが聞けるのではないかと感じました。
オンライン研修でしたが、聞きやすかったです。研修参加人数が多いので、オンラインと集合研修の選択肢があっても良いと思いました。
ピアサポーターの方がいきいきと話されていました。ピアサポーターのお仕事支援を受ける方にもご自身にも有益なのだと思います。
他市の動きを知ることができてよかった。

7 本日の研修会の内容は今後の業務に生かせると思いますか。（いずれかに○をつけてください。）

回答	回答数
(1) 生かせる	23
(2) いくらか生かせる	10
(3) あまり生かせない	1
(4) 生かせない	0
合計	34



8 質問7の回答を選択した理由、本研修での気づきや学んだ点、日々の支援を通じて感じたこと等があればお聞かせください。（自由記述）

自由記述

回答
御本人様の思い意向が聞けたとしても、やはりピアサポーターの方に関わりを持ってもらうことで、当事者間での分かり合える部分を共有しながら一緒に支援していけるのだと思いました。やどかり出版を購入して、本書の思いを知れて良かったです。他にも出版物がある様でしたら見てみたいと思いました。
ピアな立場だからこそ、引き出せる気持ちや叶えられる希望などもあるのかなと思いました。病院の中に外部から人がくるといこと自体にハードルがあったりしますが、当事者仲間であり支援者でもある立場の方から地域生活の話聞いて、退院後の生活イメージをわかせて不安の軽減を図るなど将来的にはそんな機会を院内でもてるといいなと思いました。
地域移行支援での関わり方、当事者の気持ちへの寄り添い方などは生かしていきたい。しかし、自分自身がなかなか相手の気持ちに寄り添うことができない、自分の価値で動いてしまうことが多いため、自分を振り返ることもあった。
日々、相手の話をきちんと聴けていただろうかと、振り返り、自分の支援を見つめ直す機会になりました。貴重なお話、ありがとうございました。
精神障害の方、自分の気持ちを聞いて欲しい方、多いと思います。当事者だから分かることも、多いと思います。上越にもピアサポーターが増えてくると、良いですね。
支援において、支援者目線のみでなく、当事者の方とも連携していくことの大切さを実感した。ピアサポーターの方のサポート体制を確保する仕組みも大切だと思った。
地域支援者やピア視点での病院のあり方について学ぶことができたため
ピアスタッフとしての自覚・役割・専門性を高める事で、給料を載せて働いている事に自信に繋がるのかもしれないと思えました。スタッフとの連携について、砂糖やミルクの摂取量も把握していく事が、糖尿病の人には命に関わる大事な事なのだと改めて気づかされました。ただ、話を聴く、一緒にいる、一緒に何かをするだけではない、役割や専門性を意識してーピアスタッフ・ピアサポーターとして生きていきたいと思いました。又、何処かで逢えたときには、経験を積んで深みのあるピアスタッフとして成長した自分でいたいと思いました。
私のピアサポーター活動の幅を、広げられるかもしれないと思ったから。より専門的な講座や研修があるとよい。
日頃、包括支援センターで勤務しているが、ピアサポーターと関わることがほぼ無い（活用の仕方を知らないということもある）為。
上越地域でも素晴らしい当事者とその活動文化があり、日々権利擁護意識高く、支援に当たられている方々がたくさんいるので、今回の研修を踏まえて、ピア活動の更なる活性化の議論が活発になると思います
ピアサポーターという言葉は聞いたことがある程度だった。ピアサポーターとして活動している方から具体的な話を聞くことで、やりがいもあるが、万能ではないこと、無理はせず自分のペースで活動されていることなどリアルな話を聞くことができた。「やどかりの里は家族にはない温かさがある、だから続けられる」という言葉が印象的であった。将来の安心安全を第一に支援しがちだが、失敗も含め本人が「やってみよう」と思える支援を心がけたいと思う。上越で活動しているピアサポーターの話を聞いてみたいと思った。
ピアサポートの方の思いも聞かせて頂けたことが良かったです。
ピアに直接関わった業務を行ってはいないが一緒に働くメンバーを信頼する事を改めて大切にしたい。それなりにこの業界に従事していると相手の行動や言動を少なからず疑う事があり、それが中心になってしまっていたと感じた。疑問に思うことも必要だと思うが先ずは信じてみるという事を前提として関係を作っていきたい
上越市内でピアサポーターとして活動している方がいれば、その方の話も聞いてみたいと思った。
ピアサポーターの役割ややってみての感想、また一緒に動いている方がとても信頼されていることが分かり、大切に重要な人材なのだと感じました。
ピアサポートの活動に興味・関心はありますが、現状として地域移行・地域定着のケースがなく、計画相談の業務が忙しく、ピアサポートまで手が回らないのが現状です。あと、ピアサポートを法人事業としてやっていくには、人材確保と知識スキルが必要だと思ったのですが、現実なかなか難しいところもあり、実現するには覚悟を持って行かないといけないと思いました。
ピアサポーターと支援者の関係性が印象的でした。そのマッチングも重要だと感じました。
ピアサポートの大切さを知ることができた。

長期入院者(1年以上)に係るアンケート結果について

1. 入院期間ごとの対象者数をご記入ください。

入院期間	計
1年以上～5年未満	37
5年以上～10年未満	18
10年以上～20年未満	16
20年以上～30年未満	5
30年以上	0

2. 主疾患(Fコード)ごとの対象者数をご記入ください。

Fコード	計
F0	6
F1	1
F2	60
F3	1
F7	4
上記以外	4

3. 対象者の退院を妨げている要因について、該当するものすべてにご記入ください。

※一人の対象者につき複数選択可

要因	計
治療抵抗性(症状の持続・増悪等)	56
退院への不安・意欲低下	20
生活能力の不足(セルフケア等)	44
身体合併症の存在	12
社会資源の不足(住まい、福祉、就労等の受け皿)	43
身寄りの問題(家族・支援者不在等)	26

・上記以外の要因 自由記述
 家族の問題(退院を拒否・抵抗)

4. 長期入院から地域生活への移行を進めるうえで、入院している間に、特に有効・必要だと思われるサポートをすべて選択してください。

※対象者一人につき複数選択可

支援内容	計
医師・看護師による医療的支援	62
退院後に使える福祉サービスの情報提供	19
生活スキルを向上させるプログラム	28
自分と同じ経験をした人の体験談や助言を聞く	14
退院への動機付けや不安軽減のための心理的サポート	22
支援者と共に生活設計や将来目標を一緒に考える	23
体験外出・外泊など、小さな成功体験を積み重ねる	33

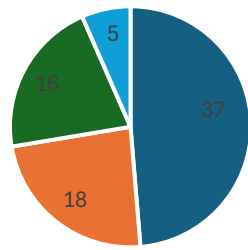
・上記以外の要因 自由記述
 家族の支援

5. 特記事項・自由記述 ※上記に該当しない現状・課題や、現場で印象的なことがあればご記入ください。

対象となった22名は、症状が持続・増悪など入院医療を要す方々です。当院では、これまでも多職種、他機関と退院支援を進め、多くの方々を地域の生活に移行させてきましたが、今回の対象者は現時点では退院は難しい印象です。

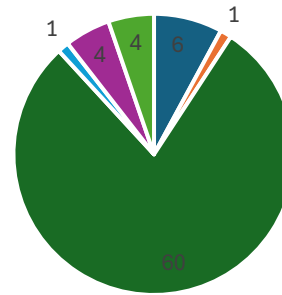
現実検討力の低下や生活能力の低下、妄想状態であっても、「退院したい」と話す方もおられます。衣食住、服薬健康管理の支援がある施設があれば病院ではなく地域で生活できる可能性があると思います。

1. 入院期間ごとの対象者数 (合計)



■ 1年以上～5年未満 ■ 5年以上～10年未満
■ 10年以上～20年未満 ■ 20年以上～30年未満

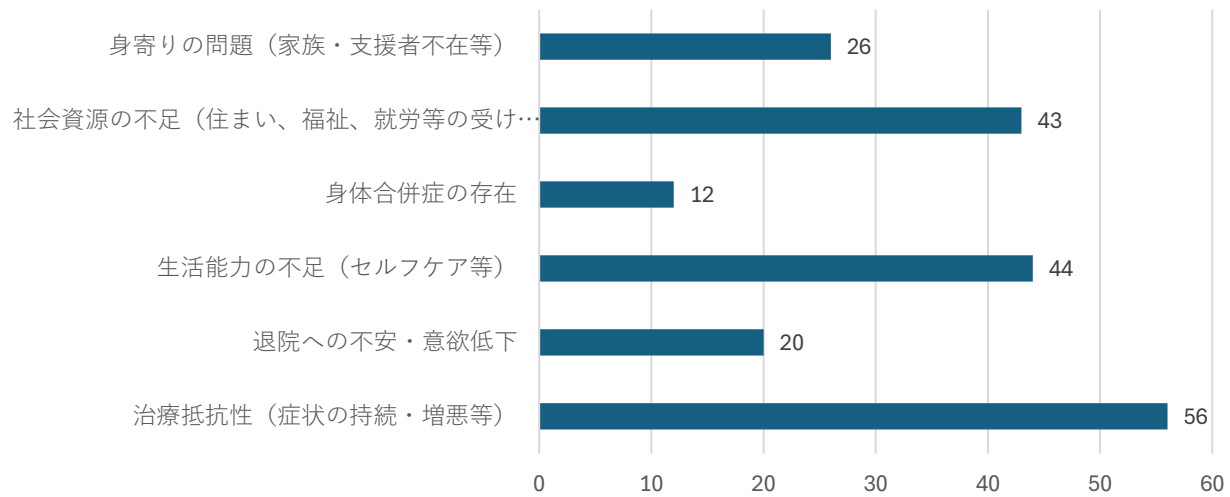
2. Fコードごとの対象者数 (合計)



■ F0 ■ F1 ■ F2 ■ F3 ■ F7 ■ 上記以外

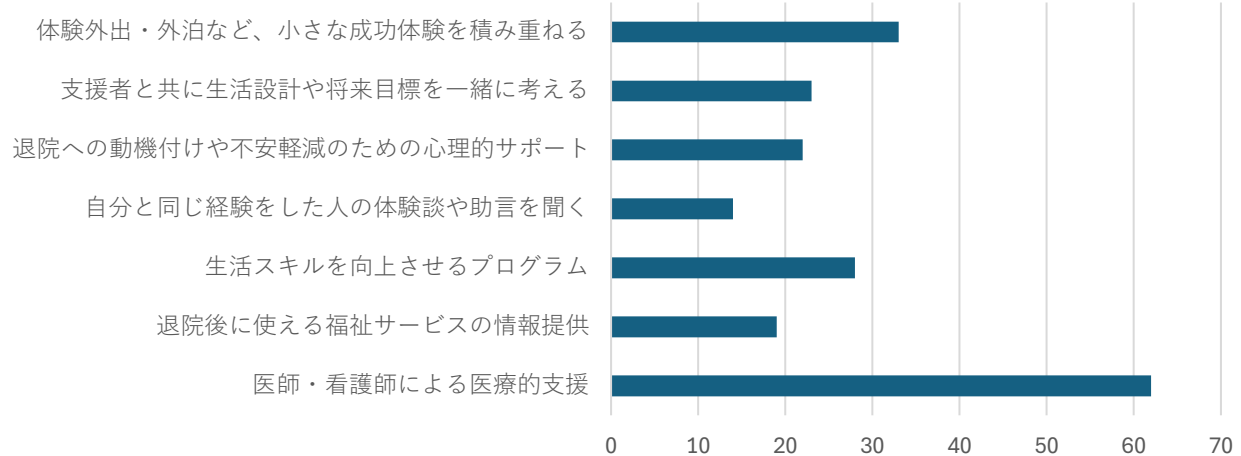
3. 退院を妨げている要因(4病院合計)

※一人の対象者につき複数選択可



4. 有効・必要だと思われるサポート(4病院合計)

※対象者一人につき複数選択可



長期入院者（1年以上）に係る状況調査について

- 目 的 市内の長期入院者の現状と課題を把握し、今後の支援策の基礎データとする
- 実施日 令和7年11月7日、14日、18日
- 協力機関 高田西城病院、川室記念病院、三交病院、さいがた医療センター
- 調査結果 別紙のとおり

<聞き取りからうかがえる課題等>

1. 社会資源の不足

(聞き取り内容)

- ・身辺介護が必要で、24時間ケア付きの施設・重度対応グループホームがあれば退院できる可能性がある。
- ・複数の障害がある人への「24時間見守りの住まいがない」ため退院できないケースがある。
- ☞本人の状態だけでなく、「地域側の受け皿不足」が長期入院につながっているケースがある。

2. 家族・支援者による本人との関係のあり方

(聞き取り内容)

- ・施設の順番待ちや家族の意向、キーパーソンの変更などにより、退院の話が止まってしまった事例がある。
- ・地域支援者が、入院当時の「激しい状態」のイメージを引きずったまま、退院や地域移行に前向きになれなかったケースがある。
- ・身寄りはあるとしても遠方で支援が難しい、親が高齢、兄弟仲が良くないなどの理由で、家族支援が期待できないケースも多い。
- ☞身寄りがいないことや家族がいないこと、また、家族や支援者の先入観等により、本人の意思が十分に反映されないまま、長期入院に至っているケースが見受けられる。

3. 情報提供や意思決定支援のあり方

(聞き取り内容)

- ・意思をうまく伝えられない人は希望や意向が伝わりにくい。
- ・退院支援のツール・マニュアルがなく、医療機関ごとに対応が異なる。
- ☞患者にとって「わかりやすい情報提供」、「選択肢の提示」、「継続的な意思決定支援」の体系的な仕組みを整える必要がある。

4. ピアサポートの活用

(聞き取り内容)

- ・ピアサポーターの人柄や経験等を十分に理解しなければ受入は難しい。
- ・ピアサポーターの役割を明確にさせる必要がある。
- ・当事者の話を聞くプログラムは一部病院で実施されており、スタッフ教育にも役立っている。
- ☞患者の権利擁護にとって重要な“当事者の力”が、制度的にも運用的にも位置付けが曖昧である。